

2016年夏 IN 佐賀県

四県(佐賀・福岡・長崎・熊本)サッカー交流会報告書

子ども達の成長

熊本県サッカー協会 キッズ委員会 委員長 武田昭二

今年の九州隣県サッカー交流会は、熊本県が事務局で、当初、阿蘇での開催を予定していましたが、4月の熊本地震により阿蘇での開催ができなくなりました。その状況を察した佐賀県のご協力により、佐賀県総合運動公園及び吉野ヶ里歴史公園で開催することができました。サッカー仲間の有り難さを感じた次第です。また、タイミングよく熊本地震の復興支援として鹿島アントラーズの植田直通選手からロアッソ熊本の巻選手を通して、Jリーグ観戦(サガン鳥栖vs鹿島アントラーズ)の招待をいただきました。子ども達にとっては、将来の自分の姿を描く絶好の機会になったのではないかと思います。さらには、サガン鳥栖のご協力により交流会参加者全員(約200名)が観戦できることになり、サッカーファミリーの絆の強さを感じたものです。

この交流会には、九州四県(福岡・佐賀・長崎・熊本)のU9(38名)、U10(99名)、U11(47名)が参加、熊本からはU9(19名)、U10(21名)が参加しました。交流会を通して子ども達に次のことを伝えております。

①多くの友達を作ること ②感謝の気持ちを忘れないこと ③よく考えて行動すること

このことは、日頃の「エリート活動」でも常に求めていることですが、今回の交流会を通して大きな経験・体験の機会となったのではと思っています。これから一歩一歩成長していく子ども達とともにエリート活動を展開していきたいと思っています。



皆に話したテーマ「友達創りと自分のことは自分でやる」2日間はどうでしたか。何人の友達ができたでしょうか、身の回りの事は十分に自分でやれたでしょうか、2つのことがサッカーをすることになぜ必要なのか、みんなはどう考えましたか。サッカーは一人ではできませんよね、信頼しあう友達(仲間)がいてやれるスポーツです。身の回りの事がきちんとできないとサッカーのプレーにもだらしなさが出てきます。そうしたら友達(仲間)はできるでしょうか、普段の生活態度から友達創りが上手いけば、サッカーも上手いくようになると思います。今回の2日間で、多少なり皆の成長したところも見て取れました、更に各自、出来たこと・出来なかったことを振り返りこれからのサッカーに普段の生活に取り組んでくれることを願っています。

キッズ委員会 副委員長 山下純朗



「チャレンジ」、今回他県の選手、指導者たちと交流することで感じた言葉です。定期トレーニング、隣県交流会と参加する子ども達は同じ環境でプレーできます。ただ、成長する機会は同じではありません。多くのチャレンジする選手が、多くの機会を得ます。初日の終わりの挨拶、200名以上の前で、感想をしっかりと話してくれたのは、熊本の選手ではありませんでした。皆のこれから「多くのチャレンジ」を応援しています。

U-10 ヘッドコーチ 松下涼太



この2日間の隣県交流会でいろいろな経験ができたと思います。失敗も多く経験したと思いますが、少しずつ自分で気づいて行動したり、仲間が困っていたら協力する場面も見ることができました。そういう成長が最後の交流戦に出ているように感じます。チーム一丸となってボールを奪いに行く姿勢、仲間のために一歩でも前に走ろうとする姿など気持ちの入ったプレーが多く出ていました。日常生活で仲間のために行動をおこせる選手はピッチの上でも仲間のためプレーできると思います。この隣県交流会をきっかけにサッカーのために日々を送ることが出来る選手が増えることを願っています。

U-10 アシスタントコーチ 今川元樹



今回 U-9 を初めて担当させて頂きました。みんなドキドキで交流会に参加したことでしょう。その勇気を持って参加できたことが、自立の第一歩です。

交流会では、各県の選手とサッカー・レクリエーションを通じて新たな友達が出来たことをうれしく思います。試合でも、今まで3回のトレーニングで積み上げてきたこと『仕掛ける』動きやゴールへ積極的に仕掛ける場面が多く見られました。試合を通じて成果と今後の課題も見つかり貴重な体験でした。最後に鹿島アントラーズ植田選手からJリーグ観戦、招待してもらったことに感謝の気持ちを忘れずにみんなも植田選手を目標に頑張ってください。

U-9 ヘッドコーチ 辰巳禎一



参加された皆さん暑い中お疲れ様でした。他県との交流、Jリーグ観戦、各県対抗の試合など充実した2日間になったのではないのでしょうか。この貴重な経験をもう一度自分で振り返りレベルアップに繋げてほしいと思います。まだまだ暑い夏が続きますが体調管理に気をつけながら大好きなサッカーに打ち込んでください!

U-9 アシスタントコーチ 末吉達也

オン・ザ・ピッチ & オフ・ザ・ピッチ 7月30日(土)



出発式@運動公園

一泊二日の交流会に向けて、保護者に出発の挨拶。代表しての挨拶は3年生がやってくれました。



佐賀に到着

国体でも使用された充実した施設での開催です。自分たちだけでなく、各県の選手、保護者、スタッフがいる中で、どのように行動するのか、考えることが普段よりも多い環境でした。

- ・荷物の置き方は？
- ・次は何をするのか？
- ・誰か困っていないか？



開会式

熊本、佐賀、長崎、福岡から200名を超える選手が集まりました。今回出会った仲間たちは、サッカーを続ければ、またどこかで出会います。



交流をテーマに、グループワークと試合を経験

学年も県もバラバラにグループを作って、グループワークと試合を交互に行いました。いつもと違う仲間どんな環境でも、自分の力を出せるようになって欲しいです。



サガン鳥栖 vs 鹿島アントラーズ 観戦

熊本県出身、植田直通選手の招待でJ1リーグを観戦。この日の観戦で何を学びましたか？
また試合だけでなく、多くの人が試合運営に関わっていることも感じましたか？



ミーティング

今日の反省をして、明日に活かします。失敗することは問題ありません。失敗を成功へつなげてください。同じ失敗は繰り返さないように。



オン・ザ・ピッチ&オフ・ザ・ピッチ 7月31日(日)



朝の散歩・体操

寝不足の子ども達も多くいました。夜遅くまで起きていたようです。何を目的に来たのか、もう一度考えて行動する必要性がありました。



朝食

今回も課題の一つでした。ただ4年生の中には、前回よりもしっかりと食べられるようになった子どももいました。

食事にも急には食べられるようになりません。毎日の食事から、好き嫌いをなくしっかりと食べられるようにしましょう。



交流試合

4チームに分かれ各県と試合を行いました。勝ったり負けたり、上手くいたり、いかなかったりと様々でしたが、よい経験となりました。今後のトレーニングに活かしてください。



閉会式・片付け

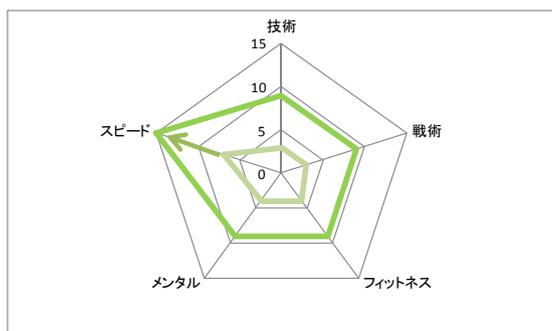
遠くで雷の音がしたので、ドタバタでの閉会式でした。



解散式

次の隣県交流会は、2月を予定。成長してまた他県の仲間たちと交流しましょう。

日本の育成への示唆



- ・この年代では多くの選手に可能性がある！
(誰が将来良い選手になるかわからない)
- ・特定の選手だけでなく、チーム全体のレベルアップを図ることで最終的に良いチームに！
- ・この年代ではチームのやり方やポジションの役割よりも、状況に応じてプレーできる力を付けさせることが大事！
(将来どのポジションをやるかわからない)

一人ひとり違った選手、良いところを見つけて伸ばす。
欠点指摘より大事、良いところに引っ張られて全体が大きくなるように

粗→徐々に精密なものに

そのためにもしっかりした基本を身につけさせることが重要



これからの活動

Move (ムーブ) 動き関わり続ける
Organize (オーガナイズ) 自立
Creative (クリエイティブ) 創造性
Challenge (チャレンジ) 果敢に(あきらめない)
Open mind (オープンマインド) 向上心・学ぶ姿勢
Smile (スマイル) 笑顔

熊本 FA 育成ビジョン

「MOCCOS フットボーラーの育成」

2014年熊本 FA 技術委員会にて育成ビジョンを決定しました。

* 詳細は熊本 FA ホームページからご覧いただけます

【U-10】

月1回の定期トレーニングを行っていきます。2月には福岡県への隣県交流会を予定。U-10 カテゴリーでは、最後の活動になる予定です。

【U-9】

月1回の定期トレーニングを行っていきます。4月からはカテゴリーも上がり、U-10として活動します。3月からは、新たなU-9参加者が入ってくる予定です。

◎県トレセンについて

トレセン制度は、数ある育成システムのうちの一つです。そこで選出された、されなかったからと言って、将来を保証されるものではありませんし、選手として道が閉ざされるわけでもありません。

キッズエリートプロジェクト出身の選手たちには、どんな環境でも自分自身を成長させられるような選手になってくれればと期待します。

コーチ、スタッフはいつまでも皆を応援しています。